

都市再生整備計画(第6回変更)

ちょうふ ふだ こくりょうえきしゅうへん ちく
調布・布田・国領駅周辺地区

とうきょうと ちょうふ
東京都 調布市

令和8年3月16日

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	東京都	市町村名	調布市	地区名	調布・布田・国領駅周辺地区	面積	180	ha
計画期間	令和5年度	～	令和8年度	交付期間	令和5年度	～	令和8年度	

目標
 大目標：鉄道連続立体交差事業に伴う駅前広場整備や鉄道敷地跡地整備により利用者の快適性や利便性向上を目指す
 目標1：魅力ある都市空間の創出
 目標2：賑わいのある歩行者空間の創出
 目標3：快適に歩ける空間の創出による中心市街地の回遊性向上

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 調布市は、平成25(2013)年度に「みんなが笑顔でつながる・めくもりと輝きのまち調布」をまちの将来像とする10年間の総合計画(基本構想・基本計画)をスタートさせ、計画的なまちづくりを進めている。この総合計画の策定と時を同じくして、平成24(2012)年8月に実現した京王線地下化(柴崎駅～西調布駅間の約28Kmと、相模原線の調布駅～京王多摩川駅間の約0.9km)に伴う調布のまちの都市構造の大きな変貌を契機とした南北一体のまちづくりを前進させるため、駅前広場や鉄道敷地周辺への都市機能の集積や、ゆとりある空間の確保により、魅力ある市街地を形成するとともに、地域の特性を生かした質の高い都市空間を形成する施策としている。
 また、平成10年6月(平成19年1月に一部改訂)には市民との協働作業を重ねて目標年次を平成32年とする「調布市都市計画マスタープラン」を策定し、将来都市像を「住み続けたい緑につつまれるまち 調布」としている。
 調布・布田・国領駅周辺地域は、その中で特定市街地と位置付けられている中心市街地に位置しており、平成12年3月に「中心市街地街づくり総合計画」を作成し、住む人や働く人だけでなく、調布のまちに一度は訪れてみたいようなまちの実現を目指して「行ってみたい、住んでみたいまち～にぎわいとやすらぎのまち～」を、中心市街地の全体のまちづくりの目標として掲げている。平成21年7月に策定された「中心市街地デザイン・コンセプト」において京王線連続立体交差事業と一体となったまちづくりにより新たに作られるものと既にあるものを連携し、にぎわいと環境の調和した中心市街地を目指すとしている。調布・布田・国領3駅の駅前広場では、「にぎわい 庭園 ちょうふ」をデザイン・コンセプトとして、新たににぎわいを創造する庭園広場、鉄道敷地を庭園のように四季感豊かな緑道空間で3駅と市内の様々な資源を結び庭園通りと位置付けている。
 調布駅前広場については、令和3年3月に策定した「調布駅前広場整備計画図」では、「イベントゾーン・コミュニティゾーン・みどりの庭ゾーン・おもてなしゾーン」の4つのゾーニングを設定し、魅力ある滞留空間の創出に向けた整備を計画している。併せて、ゆとりある歩行者空間や滞在空間の充実に向けて広場機能の考え方を示している。
 一方、鉄道敷地については、平成28年3月に「鉄道敷地整備計画」を策定し、全体が統一のとれた整備となるための基本的な考え方として、全体整備テーマを「桜を全体に配置した四季柑豊かな緑道空間」としている。また、調布駅周辺は人々が集い、活気ににぎわいのある地域特性であることから地域資源を活用した魅力ある中心市街地を創出する「にぎわい・交流エリア」とし、布田駅・国領駅周辺は緑地や農地などの自然と住環境が調和した良好な市街地を形成するために、緑豊かな都市空間を創出する「うるおい・やすらぎエリア」と設定している。両エリアを併せた緑道の各スポットに市民や来訪者が立ち寄りやすくなるような仕掛けづくりを検討し、回遊性の創出を図っていく。

課題
 ・連続立体交差事業に伴い調布駅前広場が整備され、今後歩行者数の増が見込まれるため、これに対応したゆとりある歩行者空間や滞在空間の整備・充実が求められている。
 ・併せて調布・布田・国領3駅の駅前広場と各駅をつなぐ鉄道敷地の連続した空間を有効に活用し、にぎわいや交流、うるおい、やすらぎのある都市空間の整備を進めることとしている。

将来ビジョン(中長期)
 ①調布市総合計画(令和元(2019)年度～令和4(2022)年度)(令和元年5月策定)
 重点プロジェクト4：にぎわい交流のある活気に満ちたまちをつくるプロジェクト
 <利便性と快適性を兼ね備えたにぎわいと交流のある都市空間の創出、様々な都市機能の集積により魅力ある市街地の形成する>
 ・交通利便性向上に加え、環境空間としての交流機能や景観形成機能などの広場空間を兼ね備えた駅前広場の整備を進める
 ・調布・布田・国領3駅の駅前広場と各駅をつなぐ鉄道敷地の連続した空間の有効活用により、にぎわいや交流、うるおい、やすらぎのある都市空間の整備を進める
 ・駅周辺をはじめ面的整備手法を活用した土地の有効・高度利用により、地域の特性にふさわしい都市機能の集積、計画的なまちづくりを進める
 <まちの回遊性を高め、歩いて楽しいまちづくりが形成されるとともに、映画やスポーツなどの地域資源を生かし、まちの活性化を図る>
 ・産業振興と都市基盤の整備が一体となった魅力的な中心市街地を形成する
 ・安全で快適な歩行者空間ネットワークの形成により、まちの回遊性を図っていくとともに、映画・映像関連企業との連携や、スポーツ、芸術・文化などの地域資源の活用により、まちの活性化を図る
 ②都市計画マスタープラン(平成26(2014)年度～平成34(2022)年度)(平成26年度策定)
 【中心市街地全体のまちづくりの基本方針】
 京王線連続立体交差事業と一体となって総合的なまちづくりを推進し、商業・業務・文化・居住など多様な生活機能が調和した資力的な都市空間の形成を目指す
 【調布駅周辺】
 道路等の都市基盤施設の整備を促進と市街地再開発事業等による土地の有効・高度利用を図り、商業・業務機能が都市型住宅の立地を誘導するなど商業・業務・文化・居住等の生活機能がバランスよく整えられた、身近な生活圏の中心として魅力ある市街地の形成を目指す
 【布田駅周辺】
 保存樹木や生産緑地等を尊重した緑豊かでうるおいのある住宅市街地を基本としつつ、地区計画制度などを活用した日常生活に密着した商業・業務施設や良好な居住環境を保った都市型住宅の誘導を図り、地区全体が魅力的で安全・快適なゆとりある市街地形成を目指す
 【国領駅周辺】
 商業、住宅、業務、文化、コミュニティなどの機能を備えた魅力的な市街地環境の形成が求められている。一方、野川をはじめとした周辺に自然環境と調和した緑豊かなゆとりある住環境も求められていることから、「緑豊かで、人にやさしく、にぎわいあふれるまち・国領」を目指す。

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォークアブル推進事業の計画
 滞在快適性等向上区域の考え方
 平成28年3月に策定した「鉄道敷地整備計画」において設定している。調布駅周辺の「にぎわい・交流エリア」及び布田駅・国領駅周辺の「うるおい・やすらぎエリア」を併せた回遊性を創出するため設定した。

滞在快適性等向上区域での取組
 ・緑道には各スポットに市民や来訪者が立ち寄りやすくなるような仕掛けづくりを検討し、回遊性を創出する。
 ・旧甲州街道や周辺の公園施設等を含め、誰もが憩い楽しめる空間整備に向けて、鉄道敷地の整備を進める

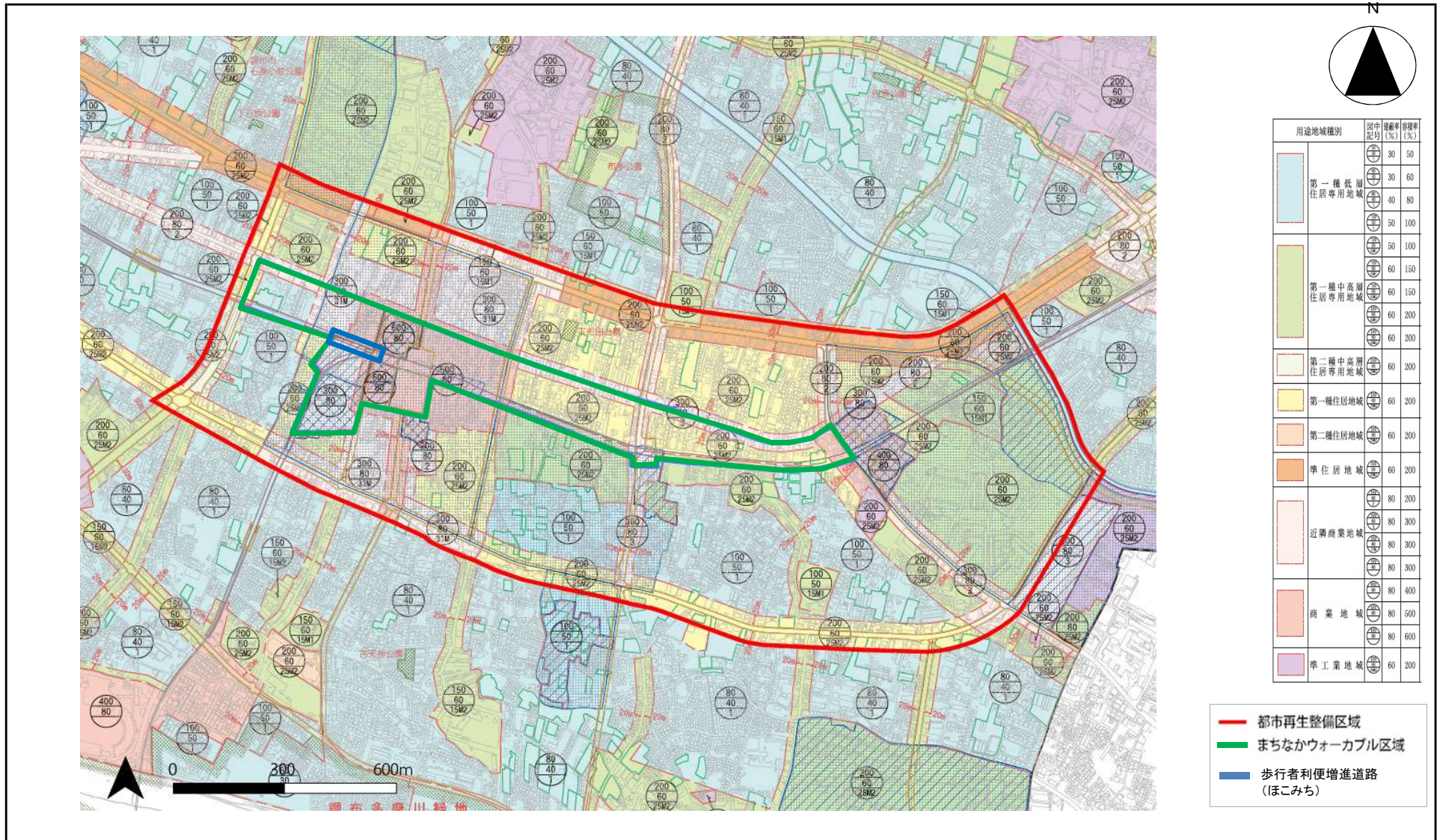
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
-----	-----	-----	----------------	-----	------	-----	------

滞留している人の数	人/1時間	駅前広場で滞留している人の数	魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって滞留する人の数が増加する。	288	人/1時間	R4年度	300	人/1時間	R8年度
緑道の歩行・滞在空間の魅力度	%	中心市街地が魅力的であると感じている市民の割合 (市民意識調査)	回遊性の向上、魅力ある滞留空間の創出によって歩行者空間の 魅力度が增加する。	68.1%	%	R2年度	80.0%	%	R8年度
	人/1時間	緑道を通過する人の数		179	人/1時間	R4年度	191	人/1時間	R8年度
歩行者空間の魅力度	%	駅周辺の利便性が高いと感じている市民の割合 (市民意識調査)	区画道路における歩道整備によって回遊性が向上し、歩行者空間 の魅力度が增加する。	70.9%	%	R2年度	80.0%	%	R8年度
	人/1時間	区画道路に通過する人の数		760	人/1時間	R4年度	800	人/1時間	R8年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【魅力ある滞留空間の創出】</p> <p>【調布駅前広場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅と南北ロータリーを結ぶ主要動線に位置する広場口について、北側ロータリー上屋と既設広場口の近接によって歩行空間が狭くなっている課題を解消するため、人工地盤を設置し、歩行者空間の確保をするとともに、仮設の建屋を改修する。また、駅前広場の中心にある広場口改修に伴い、歩行空間の確保及び屋根を拡幅し、屋根の下にデジタルサイネージや案内サインを設置し、ウォークアブル区域へ誘導していく。 ・木製ベンチを主軸に設置することで、どの世代でも憩いやすらげる滞留空間を創出する。 ・駅前広場で設定している各ゾーニングの特性と植栽コンセプトの観点から樹木を配置する。 ・ロータリー上屋は、中心市街地(調布駅、布田駅、国領駅)に統一感があり、連続性のある一体型の上屋を設置する。調布駅周辺のウォークアブル区域の人々が集いやすい駅前広場に整備することで、駅前広場の各ゾーンをつなぎ、周辺の公共施設や商業施設への移動や滞在の快適性に寄与する役割を持たせる。 ・現在の仮設トイレに代わるトイレをロータリーとの離隔も考慮し、現在位置よりも南側位置に設置する。 ・うるおい空間の創出と効果的な暑さ対策を講じるため、ミストを設置する。 	<p>【基幹事業】</p> <p>(地域生活基盤施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標識 標識設置事業 ・情報盤 デジタルサイネージ設置事業 (滞在環境整備事業) ・ロータリー上屋 ・ベンチ ベンチ設置事業 調布駅前広場 ・ミスト ミスト設置事業 調布駅前広場
<p>【賑わいのある歩行者空間の創出】</p> <p>【鉄道敷地】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑道にはスポットに市民や来訪者が立ち寄りたくなるような仕掛けづくりを整備し、にぎわいや回遊性を創出する。また、旧甲州街道や周辺の公園施設等を含め、誰もが憩い楽しめる空間整備に向けた整備を行う。 	
<p>【快適に歩ける空間の創出による地域の回遊性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者の利便性・まちの回遊性の向上を図り、ウォークアブル区域である駅前広場と鉄道敷地をつなぐ一体的な快適性の創出を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <p>(道路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画道路3号 歩道整備事業
<p>その他</p>	
<p></p>	

調布・布田・国領駅周辺地区(東京都調布市)	面積	180 ha	区域	調布市布田1丁目、布田4丁目、小島町1～2丁目の一部、および国領町4～5丁目一部
-----------------------	----	--------	----	--

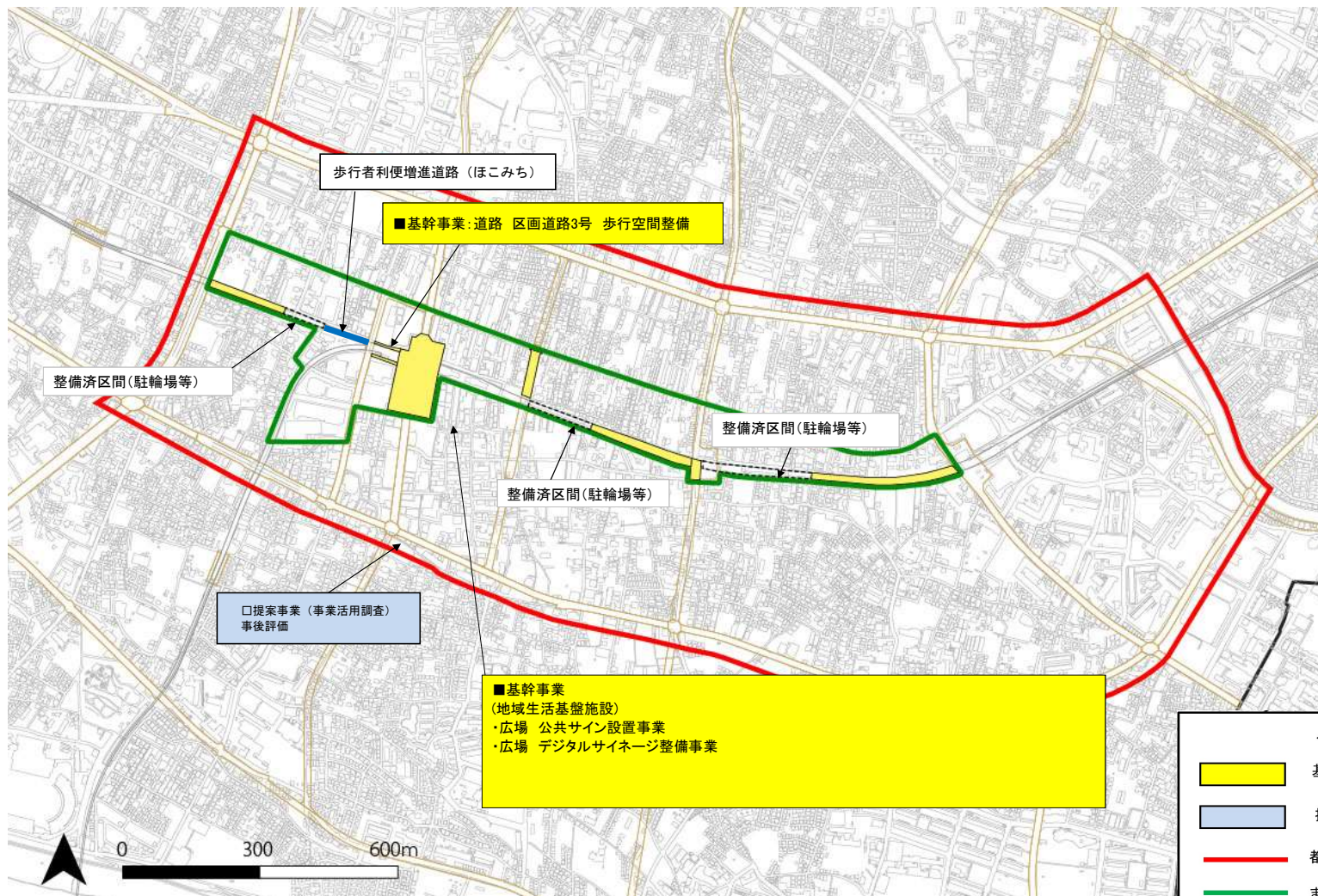


用途地域種別	区分記号	建築率(%)	容積率(%)
第一種低層住居専用地域	①	30	50
	②	30	60
	③	40	80
	④	50	100
第一種中高層住居専用地域	①	50	100
	②	60	150
	③	60	150
	④	60	200
	⑤	60	200
	⑥	60	200
第二種中高層住居専用地域	①	60	200
第一種住居地域	①	60	200
第二種住居地域	①	60	200
準住居地域	①	60	200
近隣商業地域	①	80	200
	②	80	300
	③	80	300
商業地域	①	80	400
	②	80	500
	③	80	600
準工業地域	①	60	200

- 都市再生整備区域
- まちなかウォークアブル区域
- 歩行者利便増進道路 (ほこみち)

調布・布田・国領駅周辺地区(東京都調布市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標：鉄道連続立体交差事業に伴う駅前広場整備や鉄道敷地跡地整備により利用者の快適性や利便性向上を目指す 目標1：魅力ある都市空間の創出 目標2：賑わいのある歩行者空間の創出 目標3：快適に歩ける空間の創出による中心市街地の回遊性向上	代表的な指標	滞留している人の数	人/時間	288	R4年度	→	300	(R8年度)
			緑道の歩行・滞在空間の魅力度	%	68.1%	R2年度	→	80.0%	(R8年度)
				人/時間	179	R4年度	→	191	(R8年度)
			歩行者空間の魅力度	%	70.9%	R2年度	→	80.00%	(R8年度)
				人/時間	760	R4年度	→	800	(R8年度)



凡例	
	基幹事業
	提案事業
	都市再生整備区域
	まちなかウォーカブル区域
	歩行者利便増進道路

都市再生整備計画の添付書類等(第6回変更)

交付対象事業別概要

ちようふ ふだ こくりよう えき しゅうへん ちく (とうきょうと ちようふし)
 調布・布田・国領駅周辺地区 (東京都調布市)

活用する事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	
コンパクトシティ支援型	<input type="checkbox"/>
観光等地域資源活用支援型	<input type="checkbox"/>
地域生活拠点支援型	<input type="checkbox"/>
経過措置	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	
防災拠点・コンパクトシティ支援型	<input type="checkbox"/>
防災拠点・郊外支援型	<input type="checkbox"/>
経過措置	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	
コンパクトシティ支援型	<input checked="" type="checkbox"/>
観光等地域資源活用支援型	<input type="checkbox"/>
地域生活拠点支援型	<input type="checkbox"/>

調布・布田・国領駅周辺地区（東京都調布市）現況図



交付限度額算定表(その1)

調布・布田・国領駅周辺地区 (東京都調布市) 様式(2)-③

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額の合計(X)	284.2 百万円	規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y)	257,944.0 百万円	X ≤ Yゆえ、本計画における交付限度額	284.2 百万円
-----------------------------	-----------	-----------------------	---------------	----------------------	-----------

規則第16条第1項に基づく限度額算定

Au 720,000 m² 公共施設の上限整備水準

区域面積(m ²)	1,800,000	
当該区域の特性に応じて国土交通大臣が定める割合	区域の面積が10ha未満の地区	0.50
	最近の国勢調査の結果による人口集中地区内	0.45
	その他の地域	0.40

Ci 1,189,371 円/m² 単位面積あたりの標準的な用地費

標準地点数	7
公示価格の平均値(円/m ²)	872,571
単位面積あたりの標準的な補償費	
当該区域内の戸数密度(戸/m ²)	0.002
標準補償費(円/戸)	44,000,000

Cf 23,000 円/m²

控除額 0 百万円

都市再生整備計画関連事業とは別に国庫補助事業等により整備する施設

施設名(事業名)	面積(m ²)	国庫補助事業費等(百万円)
合計	0	0

Ap 294,479 m² 公共施設の現況整備水準

整備水準が明らかになっている類似市街地等からの推定	
推定現況整備水準(小数第2位まで)	
推定公共施設面積(m ²)	0

個別公共施設の積み上げ

	面積(m ²)	割合
道路	280,407	0.16
公園	12,514	
広場	-	
緑地	1,558	0
公共施設合計	294,479	0.16

Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1) 257,944 百万円

ΣCn 0 円

下水道	0 円
区域面積(m ²)	1,800,000
うち現況の供用済み区域面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	3,600

地域交流センター等の公益施設(建築物) 0 円

上限床面積(m ²)	9,400
標準整備費(円/m ²)	1,252,571

調整池 0 円

調整池の容積(m ³)	
標準整備費(円/m ³)	140,000

河川 0 円

河川整備延長(m)	
標準整備費(円/m)	3,700,000

住宅施設 0 円

建設予定戸数(戸)	超高層	
	一般	
	合計	0
標準整備費(円/戸)		
	超高層	一般
北海道特別地区	41,310,000	33,500,000
北海道一般地区	38,190,000	30,990,000
特別地区	49,120,000	35,690,000
大都市地区	37,170,000	30,180,000
多雪寒冷地区	41,510,000	32,370,000
奄美地区	39,520,000	35,640,000
沖縄地区	30,280,000	30,280,000
一般地区	33,700,000	28,640,000

市街地再開発事業による施設建築物 0 円

施設建築物の延べ面積(m ²)	
標準共同施設整備費(円/m ²)	132,000

電線共同溝等 0 円

電線共同溝等延長(m)	
標準整備費(円/m)	680,000

人工地盤 0 円

人工地盤の延べ面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	5,300,000

協議して額を定める大規模構造物等 0 円

大規模構造物等	協議状況	整備費(円)

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2) 257,944 百万円

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額(活用する交付金の欄のみご記載ください。)

<都市構造再編集中支援事業>

交付限度額(X1)	0.0 百万円
-----------	---------

<都市再生整備計画事業>

交付限度額(X2)	0.0 百万円
-----------	---------

<まちなかウォークアブル推進事業>

交付限度額(X3)	284.2 百万円
-----------	-----------

交付限度額算定表(その2)(まちなかウォーカーカブル推進事業)

調布・布田・国領駅周辺地区 (東京都調布市)

様式(2)-④-4

社会資本整備総合交付金交付要綱に掲げる式による限度額算定(詳細)

※水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(百万円単位)

単位:百万円

○交付対象事業費(必ず入力) (百万円) (百万円)

交付対象事業費	基幹事業合計(A)	563.400	A (事業費)	1)式で求まる額(5/10*(A+B))	284.200	①(国費)
	提案事業合計(B)	5.000	B (事業費)	2)式で求まる額(5/8*A)	352.125	②(国費)
	合計(A+B)	568.400	(事業費)	上記①、②の小さい方	284.200	③(国費)
	提案事業割合(B/(A+B))	0.009		国費率(③÷(A+B))	0.500	④(国費率)

○交付限度額、国費率の算出

交付対象事業費(A+B)	568.4	(事業費)	社会資本整備総合交付金交付要綱に掲げる式による交付限度額(⑬を1万円の位を切り捨て)	284.2	⑬(国費)
			国費率	0.500	⑭(国費率)

年次計画(まちなかウォークアブル推進事業)

様式(2)-⑤-4
(事業費:百万円)

事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
事業	細項目									
道路	区画道路	歩行空間整備	主要市道21号線	調布市	0					
			区画道路1号	調布市	0					
			区画道路3号	調布市	14	14				
公園										
駐車場有効利用システム										
地域生活基盤施設	標識	公共サイン	調布駅前広場, 緑道	調布市	4			4		
	情報盤	デジタルサイネージ	調布駅前広場	調布市	9			9		
高質空間形成施設 緑化施設等										
緑地	緑地	モニュメント	区間A	調布市	0					
		モニュメント	区間B	調布市	0					
		緑道	区間C	調布市	0					
既存建造物活用事業										
土地区画整理事業										
市街地再開発事業										
バリアフリー環境整備促進事業										
街なみ環境整備事業										
エリア価値向上整備事業										
滞在環境整備事業	ロータリー上屋		調布駅前広場	調布市	379	125	254			
		トイレ	調布駅前広場	調布市	0					
		ベンチ	調布駅前広場	調布市	149.4	13	63.4	73		
		ミスト	調布駅前広場	調布市	8			8		
計画策定支援事業										
計					563.4	152.0	317.4	94	0	0

事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
事業	細項目									
地域創造支援事業										
事業活用調査	事後評価調査			調布市	5				5	
まちづくり活動推進事業										
計					5	0	0	0	5	0
合計					568.4	152.0	317.4	94	5	0
累計進捗率 (%)						26.7%	82.6%	99.1%	100.0%	100.0%

事業		事業箇所名	事業主体	全体 事業費	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
事業	細項目									
(参考)関連事業										
調布都市計画道路事業三・四・二十八号品川道天神前線		調布市布田四丁目～布田一丁目地内	調布市	2,583						
調布都市計画道路事業三・四・二十八号品川道天神前線		調布市布田一丁目～布田二丁目地内	調布市	3,889						
調布都市計画道路事業三・四・二十八号品川道天神前線		調布市布田四丁目～布田一丁目	調布市	5,535	70	85				
調布都市計画道路事業三・四・二十九号調布駅前口線及び調布都市計画道路事業三・四・三十号調布駅前深大寺線		調布市布田一丁目, 布田四丁目, 小島町一丁目及び小島町二丁目各地内	調布市	7,478	203	611				
合計					19,485	273	696	0	0	0
累計進捗率 (%)						1.4%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%

道路

単位:百万円

都市計画道路名 又はその他道路名	区間	道路 区分 <small>注1)</small>	事業 主体	事業 手法 <small>注2)</small>	工種	延長 m	幅員		整備後 車線数 車線	歩道 幅員 m	交付期間 内事業費	交付期間内事業費内訳			交付期間内 事業期間 (年度)	事業内容 <small>注3)</small>	都市計画決定 年月	備 考 <small>注4)</small>
							整備前 m	整備後 m				設計費	用地費	施設整備費				
<道路>				-														
区画道路3号	～	地	調布市	-		65	6	6	0	6	14			14	5	歩行空間整備		

(参考)

<関連事業>																		

* 本調書にはア)交付対象事業「道路」(街路、地方道、国道、その他)、イ)関連事業道路のすべてを記載すること。

注1) <道路>については、街、地、国、他の別を記載。

<関連事業>については、国、主、一、市の別を記載。

ただし、街:街路、地:地方道(市町村道)、国:国道、主:主要地方道、一:一般都道府県道、市:市町村道、他:いずれにも該当しないもの

注2) <関連事業>については通、交、地特、単独、促の別等を記載。補足説明すべき点は備考欄に説明を記載。

注3) 施設の構造、工法、及び地方道事業においては細工種、街路事業においては沿道区画整理型街路事業等の事業名

注4) 備考には現在の道路状況を把握するために必要なその他の事項で、交通量(人/日)、混雑度等を記載

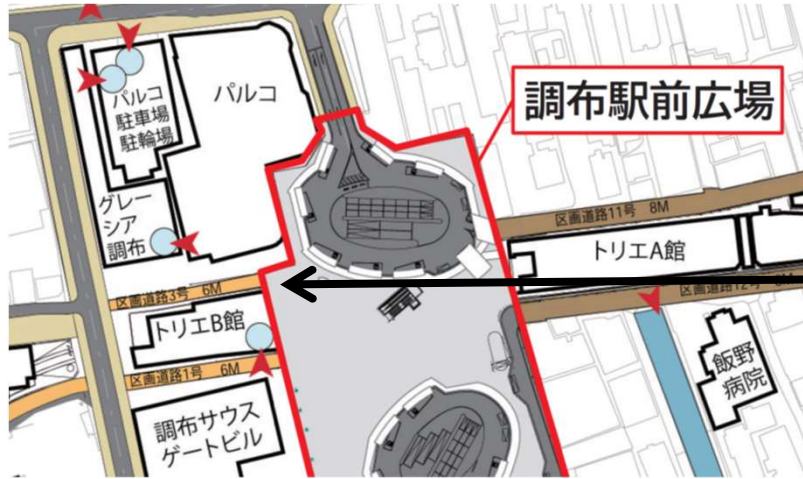
(例)・道路改築:交通量(人/日)、混雑度等

・自転車駐車場:都市計画決定の有無、面積、利用台数等

* 不足する場合は適宜行を追加すること

事業別詳細図(快適に歩ける空間の創出による中心市街地の回遊性向上) <区画道路1号・3号>

区画道路1号・3号 位置図



区画道路3号 現況写真



地域生活基盤施設(まちなかウォークアブル推進事業)

単位:百万円

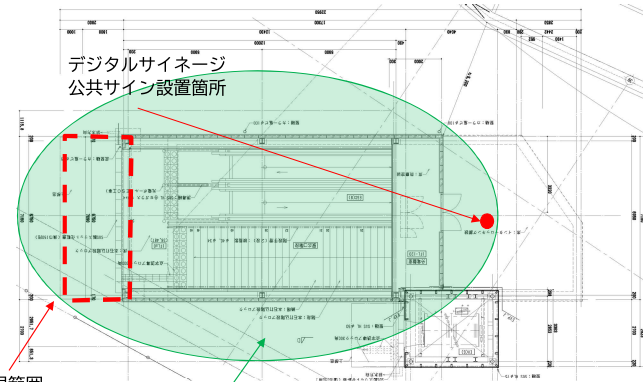
交付対象施設	施設名 (路線名等)	事業主体	規模 (面積、幅員、 延長等)	概要 (整備内容等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳				備考
						設計費	用地費	施設整備費		
								うち購入費		
緑地									—	
広場	調布駅前広場	調布市	1箇所	標識 公共サイン	4			4		
駐車場										
自転車駐車場										
荷物共同集配施設										
公開空地									—	
情報板	調布駅前広場	調布市	1箇所	デジタルサイネージ	9			9	—	
地域防災施設	施設種別:									
人工地盤等										
分散型エネルギーシステム									—	
公共公益施設と一体的 に整備する再生可能エネ ルギー施設等										
合計	—	—	—		13	0	0	13	0	

- ・施設名ごとに1行ずつ記入。足りない場合は、適宜行を追加すること。
- ・「事業主体」欄には、事業の施行者を記入。(間接交付の場合は、交付金事業者ではなく、「第三セクター」等の施行者を記入。)
- ・「駐車場」、「自転車駐車場」については、「概要」欄に、形式(立体〇層、タワーパーキング、地下駐輪場等)、面積及び駐車台数を記入。
- ・駐車場については、「備考」欄に駐車場全体の整備に要する費用を記入。
- ・自転車駐車場については、「備考」欄に都市計画決定の有無、自転車駐車施設整備計画における位置づけの有無、自転車駐車場に関する附置義務条例等における位置づけの有無を記入すること。
- ・駐車場には、共同駐車場、荷捌き駐車場、駐車場出入口付替等を含む。
- ・地域防災施設の「施設名」欄には、耐水性貯水槽、備蓄倉庫、放送施設、情報通信施設、発電施設、排水再利用施設、避難空間等の施設の種別を記入。
- ・共同駐車場については、別の所定のシートに記載すること。

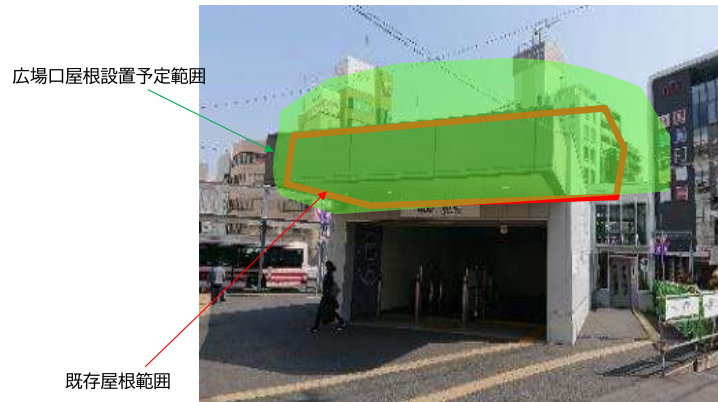
事業別詳細図(魅力ある滞留空間の創出)＜調布駅前広場＞

地域生活基盤施設：デジタルサイネージ整備事業

既設の建屋の建替えに伴い、広場口上屋の拡幅を行い、滞在環境の快適性の向上を図ります。屋根を拡幅した部分にデジタルサイネージ等を設置し、滞在快適性等向上区域に誘導を促します。



現状の広場口建屋



屋根を拡幅した部分にデジタルサイネージや案内サイン等でウォークアブル区域への誘導を促す際に、滞在性の向上を図りたい。

デジタルサイネージイメージ



出典：公益財団法人東京観光財団

滞在環境整備事業(まちなかウォークアブル推進事業)

単位:百万円

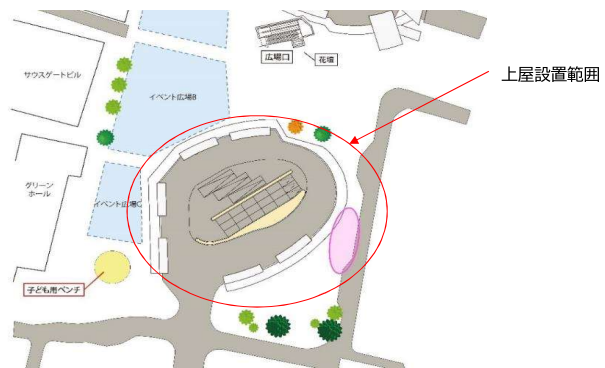
項目	施設名／調査内容	事業主体	概要 (箇所数、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
					設計費	用地費	施設整備費	
滞在環境の向上に資する環境整備(トイレ、倉庫、トランジットモール化に必要な施設等)	ロータリー上屋	調布市	800㎡	379			379	
滞在環境の向上に資する環境整備(トイレ、倉庫、トランジットモール化に必要な施設等)	ベンチ	調布市	33箇所	149.4			149.4	
滞在環境の向上に資する環境整備(トイレ、倉庫、トランジットモール化に必要な施設等)	ミスト	調布市	1箇所	8			8	
合計	—	—	—	536.4			536.4	

事業別詳細図(魅力ある滞留空間の創出)〈調布駅前広場〉

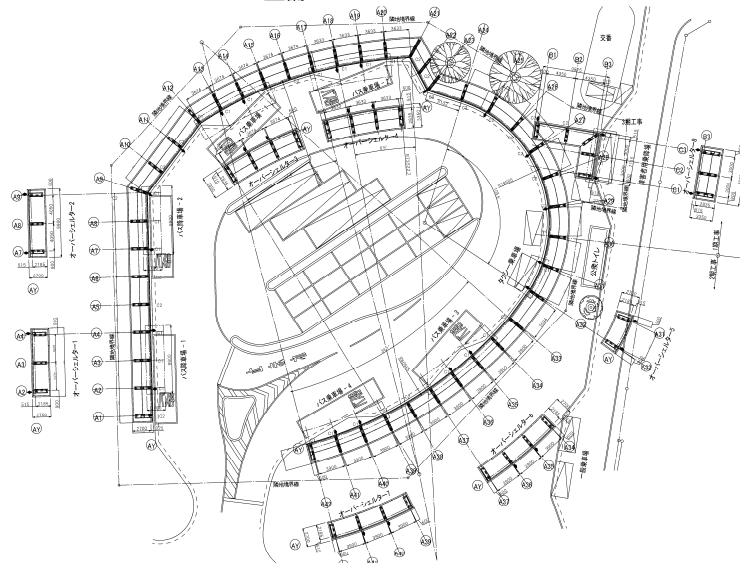
滞在環境整備事業 ロータリー上屋

■上屋の整備方針

中心市街地(調布駅、布田駅、国領駅)に統一感があり、連続性のある一体型の上屋を設置する。



整備イメージ



調布駅北側ロータリー上屋(整備済)



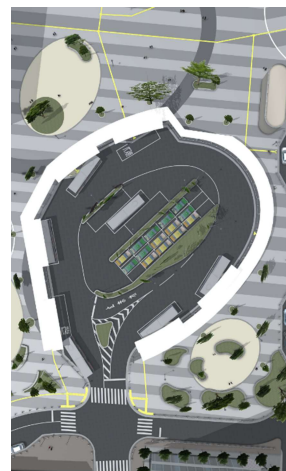
布田駅ロータリー上屋



国領駅ロータリー上屋(整備済)



整備イメージ (パース図)



事業別詳細図(魅力ある滞留空間の創出)＜調布駅前広場＞

滞在環境整備事業

■ベンチ配置・交共サインの考え

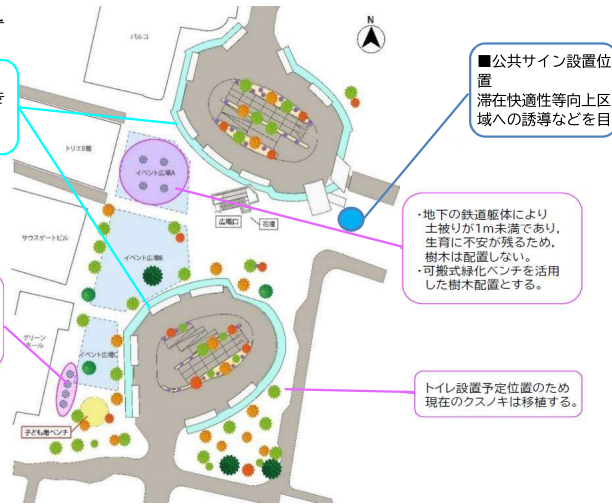
雨天でも安全に乗り降りできるための上屋を設置する。

グリーンホールとの一体性に配慮するため、当面の間は可搬式緑化ベンチを設置する。

■公共サイン設置位置
滞在快適性等向上区域への誘導などを目的

・地下の鉄道躯体により土盛りが1m未満であり、生育に不安が残るため、樹木は配置しない。
・可搬式緑化ベンチを活用した樹木配置とする。

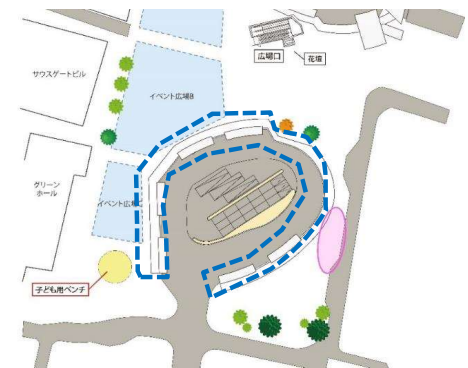
トイレ設置予定位置のため現在のクスノキは移植する。



■上屋の整備方針

上屋・・・ (設置予定箇所)

- ・連続性のある一体型の上屋を設置する
- ・施設のグレードや仕様、管理方法については、今後関係部署と協議のうえ決定していく



○憩い空間

どの世代でも憩いやすらげる空間を創出する中で、木製ベンチの設置を主軸に検討していく。



設置する木製ベンチイメージ

○うるおい空間

ミストの活用を前提に、うるおい空間の創出と効果的な暑さ対策を講じられるよう、今後も様々な形で社会実験等を実践し、決定していく。



ジ)

事業別詳細図(魅力ある滞留空間の創出)〈調布駅前広場〉

滞在環境整備事業 ミスト

〈コミュニティゾーン うるおい空間〉

駅前広場のコンセプトにあったミストを設置し、利用者の滞在快適性の向上を図る。

ミスト(イメージ案)

イメージ図



設置位置図(予定)

